

## 「やすぎ発見!AtoZ」

発行日 2020年12月25日  
文・デザイン・編集 福知山公立大学 地域経営学部 地域経営学科  
4年 内藤 和 (2017年入学)  
協力 安来市商工観光課(情報提供・写真提供)  
株式会社ひろせプロダクト(取材協力・写真提供)  
天野紺屋(取材協力・写真提供)  
地元の友人(写真提供)  
写真提供 (Instagramより) aki\_sanpogram(白樺大橋) chokobi2019(飯梨川)  
iwakai02(鷹入の滝) sayoko\_knit(清水寺) utsuson0725(白鳥ロード) ※敬称略  
発行 福知山公立大学地域経営学部 塩見直紀研究室  
〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370

# YASUGI

たくさんの方々にご協力いただきました。  
ありがとうございました。

安来  
やすぎ 発見!  
AtoZ

安来の魅力を再発見

新しい安来

知らなかった安来



## message

安来で生まれ育った私でも

知らない安来がまだたくさんあることに

この AtoZ 制作を通して気づくことができました。

そして、これから安来がどんなまちになっていくのか

楽しみにもなってきました。

小さい時からずっと安来で過ごしてきて、

ずっと見てきた風景や思い出がここにはたくさんあります。

安来を好きな理由、まだ知られていない安来がきっと見えてくるはず。

この冊子を通してそんな魅力を発見し、広めていけたらと思います。

## contents

A	araessa アラエッサ
B	boundary 境界線
C	cafe カフェ
D	dojosukui どじょうすくい
E	enyaenya エンヤエンヤ
F	favorite お気に入り
G	gassantodajo 月山富田城
H	history 歴史
I	ichigo イチゴ
J	jikan 時間
K	kiyomizu 清水
M	michikusa みちくさ

N	Navy Navy
O	One One~17年連続日本一の庭園~
P	play 遊び
Q	quiet 静けさ
R	river 川
S	small hotspring 小さな温泉地
T	take straw 竹ストロー
U	umaresodattabasho 生まれ育った場所
V	view 眺め
W	washi 和紙
X	bunkakoryu 文化交流
Y	yamajiro 山城
Z	zimotopan 地元パン



“アラエッサッサー”  
安来市民なら誰もが一度は耳にしたことがある安来節の代表的な合の手です。今では公共施設や道の駅の名称に取り入れられるほど、このフレーズが安来市を代表するとても大事なキーワードになっています。

## あらえっさ

安来はすぐ隣が鳥取県で、県と県を繋ぐまちでもあります。また、広瀬・伯太の山間地域と中海に面した港町という二つの要素を持つまちです。水辺と山の境界線、県と県との境界線。境界線はどちらの要素も持っているということ。これもまた安来の魅力のひとつですね。

## 境界線

正直、安来にカフェが多いイメージはあまりなかったのですが…。最近「あれ？ここにもカフェできてたんだ！」と気づくことが多いです。そして、これからまだまだ増えてくのではないかなと期待しています。話題性のある場所、安来にはまだそのようなところは少ないけれど、だからこそ色々なことがチャレンジしやすいまちなのではないかと思います。

## カフェ

安来節の始まりは元禄時代（1688から1704年のころ）と言われています。当時の安来での暮らしの中から生まれた安来節。どじょうすくいとは酒の席で安来節に即興で振りをつけて踊ったことが始まりで、偶然が生んだ奇跡とも言われています。今では安来節といえば「どじょうすくい」を連想させるほど代表的なものになっています。実は、男女で振りが違うようです。知らなかった…。

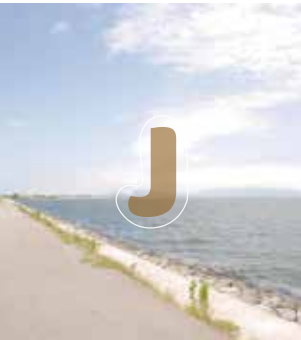
## どじょうすくい

安来の夏の風物詩といえば、8月のお盆時期に行われる月の輪神事。1300年受け継がれてきた伝統的な神事です。「エンヤエンヤ、デゴ・デットーヤ」（みんなみんな、出てきて手伝えよ）と掛け声をかけながら4つの町内から神事の山車が町に繰り出します。4日間行われる神事の見どころは、4つの町内がそれぞれの腕を競い合う神事四重連です。とても迫力があり、毎年圧倒されます。

## エンヤエンヤ

古民家の絵本屋さん「子どもの本つ〜ぼ」は安来町西灘にあります。店主の市ヶ坪裕子さんは大好きな絵本のお店を大好きな安来で始めようと思ひ、このまちで絵本の魅力を伝えています。お店の周辺には、まだ昔ながらの家屋が残っており、安来のかつての街並みや雰囲気を感じることが出来ます。大人も子どもも楽しめる懐かしくて新しい絵本屋さんです。

## お気に入り



月山富田城は安来の  
 広瀬町に戦国時代、  
 山陰地方を占めていた  
 尼子氏の本拠地です。  
 今では城跡となっていますが、  
 国の史跡に指定されています。  
 ハイキングコースが整備されており、  
 眺めは最高、秋は紅葉が綺麗で、  
 要注目スポットです。  
 安来の地酒にはこの月山から  
 名付けられた日本酒が販売され  
 ているほど月山は安来のシンボル  
 的存在なのです。

## 月山富田城

大正創業の醤油屋さん、  
 パン屋さん、お菓子屋さん…  
 安来では多くの老舗店が今でも  
 愛され続けています。新しいもの  
 をどんどん取り入れていく時代に、  
 安来は古いものを大切にしている  
 まちと感ずることが多いです。  
 古いものを大切に、新しいことを  
 起こしていく。安来にはそんな  
 まちであって欲しいですし、その  
 ためにできることを考えていき  
 たいです。

## 歴史

安来の特産品といえば、イチゴ。  
 安来のイチゴが味わえるカフェが  
 2020年にオープンしました。と  
 ても可愛いお店の外観で、イチ  
 ゴの他にもたくさんフルーツを使  
 ったスイーツを楽しむことができ  
 ます。地元の特産品を味わえる  
 スイーツカフェ、一度訪れて欲  
 しいスポットです。

## イチゴ

平日は市外へ、休日はほとんど  
 安来で過ごしていた私にとって、  
 ここでの時間は自由でとてもゆ  
 っくりと流れているように感じ  
 られました。休日だからこそ、  
 ゆっくり安来を満喫できるチャン  
 スだと思えます。私のお気に入り  
 は中海沿いに続く散歩道です。  
 安来で自分のお気に入りのスポ  
 ットを探してみたいですね。

## 時間

清水寺は安来にもあります！  
 小さな頃から毎年初詣はここ  
 に来ていたので、大人になって  
 から改めて行くこと、本堂に向  
 うまでの道がすごく風情があ  
 って素敵だなと感じました。  
 長く続く石段を登り続けると、  
 視界が開けて本堂と三重塔が  
 見えます。寒い冬でも体はあ  
 ったまり、眺めも良くて最高  
 です。四季ごとに表情を変えて  
 くれるのも良いですね。

## 清水

広がる田園風景を見ていると、  
 田舎っていいなあと改めて思  
 います。田舎だからこそ感じ  
 られる魅力は数え切れないほど  
 ありますし、人それぞれ違う  
 ポイントも違うと思います。  
 安来にも気づけなかったけど、  
 実はこれって安来ならではの  
 魅力では…？という発見が、  
 少しできたような気がします。

## ローカル



安来節にも登場する十神山。神無月に八百万の神が出雲大社に向かう途中の休憩所として言い伝えられてきました。そんな十神山ですが、現在では一角に砂浜やキャンプ場が設けられており、全長3.5キロの遊歩道で山と水辺を楽しめるレジャー施設になっているそうです。

みちくさ

michikusa

安来市広瀬町にある藍染の老舗天野紺屋は、明治3年から続く歴史ある藍染紺屋です。雪が深かった広瀬地区。冬の時期でも家の中でできる染めの文化が広まったそうです。5代目の天野尚さんは、自分の好きな色だからこそ、藍染の魅力をたくさんの人に伝えていくことができるそうです。染めの体験もでき、自分だけの作品を作ることができます。

Navy

navy

安来市古川町にある足立美術館には多様な庭園、そして有名な画家たちによる数々の作品が展示されています。庭園の面積は5万坪に及び、絵画のような日本庭園は常に庭師らの手によってその美しさが保たれています。アメリカの日本庭園専門誌のランキングでは、17年(※)連続1位に選ばれています。

One's 十七年連続日本一の庭園

one's

小さい時は家でゲームをして遊ぶよりも友達と家の近所で秘密基地を探したり、川の浅瀬で水遊びをしていることが多かったです。遊び場は自然の中に常にありました。大人になった今でも自然はいつも私たちの遊び相手になってくれます。

遊び

play

賑やかな場所も魅力的ですが、たまには風の音や、どこからか鳥や虫の鳴き声だけが聞こえる、そんな静かなまちにも行きたくくなります。安来はそんな静けさを持ったまちでもあります。私が安来市内をふらっと巡りたくなるのはこの静けさの中に自分を置き、自分と向き合う時間が好きだからだと思います。

静けさ

quiet

安来の川はこのまちの産業を支えています。美味しいお豆腐や醤油、お米、ここでできた食材は川か運ばれた水を使用しています。自然と産業の結びつきが強いのも安来の魅力だと思います。変わらない味が地元の人々に愛され続ける味になっているのだと思います。

川

river

※2020年12月現在



美肌県で有名な島根県。玉造温泉はお隣の松江市にあります。ここ安来にも小さな温泉地、鷺の湯温泉があります。温泉地といえば賑やかなイメージがありますが、安来の温泉地は宿が三軒。とても静かでゆっくりと時間の流れに身を任せながら過ごすことができます。たまには「何もしない」こんな時間があってもいいかもしれません。

## 小さな温泉地

2019年、安来市広瀬町に本社を置く、「株式会社ひろせプロダクト」が持続可能な資源である竹を原材料とした「竹ストロー」の開発に成功し、話題となりました。他にも「竹歯ブラシ」など、竹を使った環境に優しい新しい製品を開発しています。世界へ発信していける安来に吹く新しい風なのではないかと私は思いました。

## 竹ストロー

ずっとこのまちで暮らしてきた私にとって、安来はいつでも戻って来られる場所であり、離れて暮らしていても、たまに戻ると懐かしくて安心できる場所です。恐らく、ずっと安来で暮らしていたらこのことには気づけなかったと思います。故郷があることはとても幸せなことなのだ改めて感じました。

## 生まれ育った場所

安来は意外と絶景スポットが多いように思えます。例えば能義平野を通る白鳥ロード。冬はコハクチヨウが飛来することからその名で呼ばれています。田園に降り立った白鳥が広がる平野の風景をさらに引き立ててくれます。白鳥が道路を横断する光景に出会えることも…。

## 眺め

広瀬地区の紙製造の文化の始まりは江戸時代まで遡ります。農業の副業として栄えた広瀬和紙。今でも機械ではなく手作業で紙づくりは行われています。1982年3月には、浜田市の石州和紙や奥出雲町の雲州そろばんなどと並び、県ふるさと伝統工芸品に指定されました。これからは受け継がれていくべき、広瀬地区の伝統であり、大切な地域資源です。

## 和紙

安来節の歴史からもわかるように安来は昔から文化交流が活発な地域でした。安来港を出入りしていた船の船頭たちが各地の歌をうたったことが影響し、今の安来節によく似た「さんご節」が生まれました。安来節はある種の化学反応で生まれたのではと思います。まだまだ知られていない文化もきっとたくさんあると思います。

## 文化交流



My  
安来  
やすぎ 発見! AtoZ  
作ってみよう!



にがおえ

安来はおよそ 80 箇所もの山城が有るといわれており、山城の宝庫なのです。月山富田城はもちろん他にも大きな「割れ石」のある天馬城、月山富田城を守る支城とされ、頂上からは大山を望むことのできる安田要害山城など、さまざまな山城があります。山城には安来の歴史が隠されています。ガイドマップを持って安来で山城めぐりはいかがでしょうか？

## 山城

これも発見です。安来って意外とパン屋さんがたくさんあるんです。黒井田町にある「杉本パン」にはレトロなパッケージのパンが多く並んでいます。昔から地元の人たちに愛され続けているパンがまだまだたくさんありそうです。安来の地元パン、探してみるのもいいですね。

## 地元パン

What is  
yasugi  
to you?  
あなたにとって  
安来とは？

改めて  
「安来のここが好き!」を  
考えてみませんか？

- A \_\_\_\_\_
- B \_\_\_\_\_
- C \_\_\_\_\_
- D \_\_\_\_\_
- E \_\_\_\_\_
- F \_\_\_\_\_
- G \_\_\_\_\_
- H \_\_\_\_\_
- I \_\_\_\_\_
- J \_\_\_\_\_

- K \_\_\_\_\_
- L \_\_\_\_\_
- M \_\_\_\_\_
- N \_\_\_\_\_
- O \_\_\_\_\_
- P \_\_\_\_\_
- Q \_\_\_\_\_
- R \_\_\_\_\_
- S \_\_\_\_\_

- T \_\_\_\_\_
- U \_\_\_\_\_
- V \_\_\_\_\_
- W \_\_\_\_\_
- X \_\_\_\_\_
- Y \_\_\_\_\_
- Z \_\_\_\_\_

書いたらぜひこちらまで!  
皆様のAtoZ待ってます!  
送信先: yasugi.atoz@gmail.com



伯太のチューリップ

飯梨川



清水寺

## やすぎ 映え スポット



白椿大橋



鷹入の滝

### 一作者について

内藤 和(ないとうのどか)

1998年、島根県安来市に生まれる。

小さい頃は絵を描くことや、友達と秘密基地を作ったり、探検ごっこをするのが好きで、ほぼ毎日外で遊んでいた。

遊び相手が自然そのものであった私にとって、地元の原風景はいつまでも残していきたい大切なものである。この冊子の制作を通して、私自身も地元をさらに好きになった。

多くの人に地元を語れる“地元バカ”になりたい。

(メールアドレス: yasugi.atoz@gmail.com)

## やすぎみちくさマップ Michikusa map



安来市商工観光課 「安来みちくさ便り」より  
<https://www.yasugimichikusa.com/map>